

キューピールーム

災害マニュアル

1. リスクマネジメント
2. 身の回りの防災
3. 防災グッズ
4. 地域との連携
5. 避難マニュアル
6. 保護者との連携
7. 火災が起きたら
8. 地震が起きたら
9. 台風が来たら
10. 水害が起きたら
11. 不審者への対応
12. 避難訓練

1. リスクマネジメント

リスクマネジメントとは、「組織を取り巻く様々な損失や損害が発生しないようにすること。もしも予想できなかった規模の損失や損害が発生した時でも、その被害を最小限にし、よりすみやかに復旧するための活動」である。

私たちは、自然災害の発生を防ぐことはできないが、その被害を最小限度に食い止めることはできる。

リスクマネジメントは「リスクの把握」→「リスクの分析」→「リスクへの対応」→「対応の評価」という流れで進められる。

2. 身の回りの防災

定期的に危険な場所の安全点検を行うことで、災害が起きた時の事故を防ぐことができる。また、建物のまわりにある危険を職員一人一人が実感できる。安全対策は、時間の経過とともに認識が薄れていくので、毎月一回定期的に点検することが必要。

- ・ 出入り口には物を置かずに、避難ルートを常に使えるようにしておく。
- ・ 避難ルートに危険な場所、個所がないか毎月一回定期的に点検する。
- ・ タンス、本箱、くつ箱などは、転倒防止のため、金具等で固定する。
- ・ テレビ等のオーディオ器具は、金具、ワイヤーで転倒を防止する。
- ・ 扇風機は、金具、ワイヤーで落下を防止する。

3. 防災グッズ

避難先での生活に最低限必要なものをいつでも持ち出せるように、非常用持ち出し袋を準備する。また食品、薬、電池は毎年（年末）に消費期限を点検することが必要。

非常用 持ち出し袋 1	紙おむつ	おしりふき	おんぶ紐
	着替え	バスタオル	お菓子
	哺乳瓶	粉ミルク	ビニール袋
非常用 持ち出し袋 2	園児緊急連絡先	救急用品	ラジオ
	懐中電灯	電池	ブルーシート
	ミネラルウォーター	使い捨てカイロ	ガムテープ・マジック

園内備蓄品として、ミネラルウォーター、レトルト離乳食、お菓子を三食分用意する。

4. 地域との連携

日ごろから、地域住民、企業、各種団体と信頼関係を築き、災害発生時に支援を要請できる体制づくりに努める。

連携先	アトラスアベニュー文京大塚 管理人室	03-3943-9766
	アリア文京大塚	03-5319-3686

5. 避難マニュアル

火災害の種類（火災の場合は出火元）ごとの避難先と方法を定めた「避難経路計画」（別紙1）を作成する。

避難マニュアルは、園内の目につきやすいところに掲示するとともに保護者へも配布する。

また、最寄りの消防、警察、救急医療施設、行政の連絡先を記載した「緊急連絡先」（別紙2）を作成し、園内の電話機近くに掲示する。

6. 保護者との連携

園児を安全に保護者のもとに引き渡すためには、保育園の努力だけでなく、保護者の協力が必要。

災害時は、電話が繋がらないことを予想して、メールや災害用伝言ダイヤルなどの連絡手段を決め、保護者への周知に努める。

保育園メールアドレス	info@qproom.jp
伝言の録音	171-1-03-6912-0010
伝言の再生	171-2-03-6912-0010

7. 火災が起きたら

火災は、起こさないことが肝心だが、起きてしまったら、すぐに子どもを避難させなければならない。火災で発生した有毒ガスや高温のガスを吸い込むことによる呼吸困難で人命が奪われるケースが多いため、煙の特性を理解して避難する。

保育園が火元の場合は、園児を火元から最も遠くにある避難口から建物の外へ誘導して安全な場所に集め、その後に避難マニュアルにそって避難場所に避難する。

可能であれば、延焼を防ぐためにドアや窓をできるだけ閉め、消火器による初期消火を行う。同時に別の職員が消防署に通報する。

周辺が火災の場合は、正確な情報をつかみ、状況に応じて避難マニュアルにそって避難場所に避難する。

8. 地震が起きたら

地震が起きたら、まず落下物から身を守ることが先決。地震で最も危険なことは、ゆれが原因の火災の発生であるため、ゆれが治まったら保育園だけでなく周辺の安全確認が必要。

園児を上から物が落ちてこない、物が倒れてこない場所に待機させる。

窓、扉を開けて、出入り口を確保する。

予め、文京区防災ホームページから「文の京」安心・防災メールを登録しておき、防災・災害情報を入手する。

状況に応じて、避難マニュアルにそって避難場所に避難する。

園外にいた場合は、建物から十分離れた自動車が通らない場所に子どもを誘導し、園児の確認後に保育園と連絡をとり指示を仰ぐ。状況に応じ、より安全な場所への避難も必要。

9. 台風が来たら

台風がもたらす被害のほとんどは風害と水害。台風が発生した時には、台風情報を常にチェックし、接近や通過の可能性がある場合は、あらかじめ対策を立てておく。

台風情報・天気予報を常にチェックし、状況に応じて保護者に連絡を取り、安全なうちに引き取ってもらう。

強風で飛ばされそうなものは、室内に移動するか、ロープ等で固定する。

10. 水害が起きたら

舗装に覆われた都市部では、河川や下水の排水能力を超えた雨が降ると、水が低い場所に集まり、短時間のうちに浸水が起こる都市型水害が発生する。短時間で浸水するため、避難には迅速な判断が求められる。

予め、文京区防災ホームページから「文の京」安心・防災メールを登録しておき、防災・災害情報を入手する。また降雨時には、定期的に屋外を観察して道路の冠水状況を把握し、避難判断に役立てる。

文京区から避難勧告や避難指示があった場合は、避難所(大塚小学校)に避難するのが原則だが、洪水による水の流れは早く、深みもあるので乳幼児を連れた避難は、非常な危険を伴う。そのため、ビルの高所で救援を待つようにする。

11. 不審者への対応

保育園は、保護者の送迎など人の出入りが頻繁な施設であり、多くの乳幼児が生活する施設であるから、外部からの不審者の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えた対応を図っておくことが必要。

保護者の送迎が集中する時間など以外は、ドアを施錠し、人物確認等の安全確認実施後に開錠する。

園内での不審者への対応時は、不審者とは適当な距離を保ちながら、園外に誘導して園児に近づかせないようにする。適当な距離がとったら大声で「不審者、110番通報」と叫ぶ。

園外活動時は、園児を集めて職員が周囲を固めて安全を確保し、必要より周囲の人に応援を求め、110番通報する。

自治体の不審者情報は、必ず園長が確認し、必要に応じて職員に情報を伝える。

12. 避難訓練

毎月、園児と職員が参加する避難訓練を実施する。

訓練には、参加可能な園児と職員全員が参加する。

災害想定は、火災、地震、竜巻とする。

訓練開始前に職員の役割分担（保育室からの誘導、集合地点での誘導、110番通報、初期消火、非常用持ち出し袋）を決めてから実施する。

訓練の様子は、避難訓練記録簿（別紙3）に記録する。